

非鉄金属鋳物業における高温・低温物との接触災害の死傷災害発生事例（2017年）

2017年発生月	時間	死傷災害発生事例	年齢	労働者規模
1	14~15	800t鋳造機の保持炉において、材料の交換の為、鉄坩堝の交換作業中に、鉄坩堝内での溶解途中でアルミ溶湯が一部飛び散ってしまい、保持炉そばで清掃を行っていた作業者にアルミ溶湯が付着してしまい、火傷を負ってしまった。	31	50~99
3	16~17	アルミ鋳物鋳造場で作業中、ヒシャクを持って移動中、ヒシャクの先が物にぶつかり残った湯がハネて左足の安全靴の中に入った。	44	10~29
3	11~12	工場内ダイカストマシンで鋳造作業中、自動給湯器の間に誤って入り、カスを除去したところ自動給湯器のアームが肩に引っかかり、給湯器のラドル（溶湯の柄杓）に接触し、右肩と右あごを火傷した。	25	100~299
4	3~4	アルミの溶湯納品用ポット炉上（高さ約100cm）で、出荷前の溶湯仕上げ作業（ノ口取り）中、バランスを崩して足を踏み外し、溶湯内に左足が入って左膝から下を火傷した。	48	10~29
7	4~5	当社工場建屋内にある鋳造場にて、アルミ溶解の出湯作業を行っていたとき、溶解炉出湯口から鋳型へ注入する分配器までを繋ぐライン（樋）に右足を落とした。事故当時、樋をまたぐ渡り階段を利用したときに、開閉式の桶点検用の蓋が開いている状態でまたいでしまい、樋の縁に足を置いた際に滑ってしまった。結果、右足裏および甲から指先、足首の部分にかけてⅢ度の熱傷を負った（範囲2%）。	38	50~99

Return to : [https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206\\_09.html](https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_09.html)